2026年３月期 第２四半期決算説明会（WEB 説明会）　質疑応答議事録

日　時　2025年10月31日（金）　10:00～10:30
説明者　取締役　経理・財務本部長　今井　英樹
司　会　経理部長　小林　佳弘

Q1.　第１四半期決算時に米国の関税影響として、業績予想の営業利益以下を▲５億円下方修正したが、上期の関税影響はどのくらいだったのか？
A1.　上期で▲４億円程度の影響が出た。第２四半期に入り中国から米国への輸出等もあり、その分が予定よりも多く影響した。ただし、下期については米国、カナダ政府からの還付、お客様との交渉を進め大きな影響は出ないと考えている。

Q2.　上期の営業利益に対し、下期の営業利益が弱く見えるが下振れ要因はあるのか？
A2.　下期に日本や北米でモデルチェンジの予定があり、一時的に生産台数が減る見込み。お客様の生産台数から割り引いて計画を作っている為、お客様の生産台数が計画通りであれば上振れ要因となる。

Q3.　トヨタ自動車が下期から価格改定を行うとの報道があったが、今回の業績予想には織り込んであるか？
A3.　具体的な数字は控えるが、今回の業績予想に織り込んである。

Q4.　中国セグメントにおいて、上方修正した要因と今後の市場見通しを教えて欲しい。
A4.　想定よりも生産台数が出ていることが上方修正した主な要因。今後については、競争が厳しいことに変わりはない。現地のサプライヤーも力を付けてきており、お客様も採用することが増えてきた。予断を許さない状況だと認識している。

Q5.　中期経営計画で2027年度の営業利益率５％を目標にしているが、今回の中間期の営業利益86億円および営業利益率3.9%をどの様に評価しているか？また今後どの様に利益率を上げていくのか？
A5.　中期経営計画において2027年度の目標を支給品除く売上高4,200億円、営業利益率５％（営業利益210億円）としている。中期経営計画１年目の今期の営業利益予想160億円という数字は目標達成に向けて、順調だと評価している。2027年度までのお客様の受注計画は決まっている為、売上拡大以外での、現行部品の生産性の向上やモデル切換時の原価低減活動を行い営業利益率の向上を図りたい。

Q6.　現在米中で協議が進んでいるレアアースの輸出規制の影響はあるか？

A6.　弊社の製品にはレアアースは使われていない為、直接的な影響はない。ただし、半導体と同様、お客様の生産に関わってくれば影響を受ける可能性はある。

Q7.　前期比で北米セグメントが好調な要因は？

A7.　前期は当社にとって影響の大きいグランドハイランダーの生産停止があり大変厳しい状況だった。今期についてはネガティブな要因がなくなった。

以上